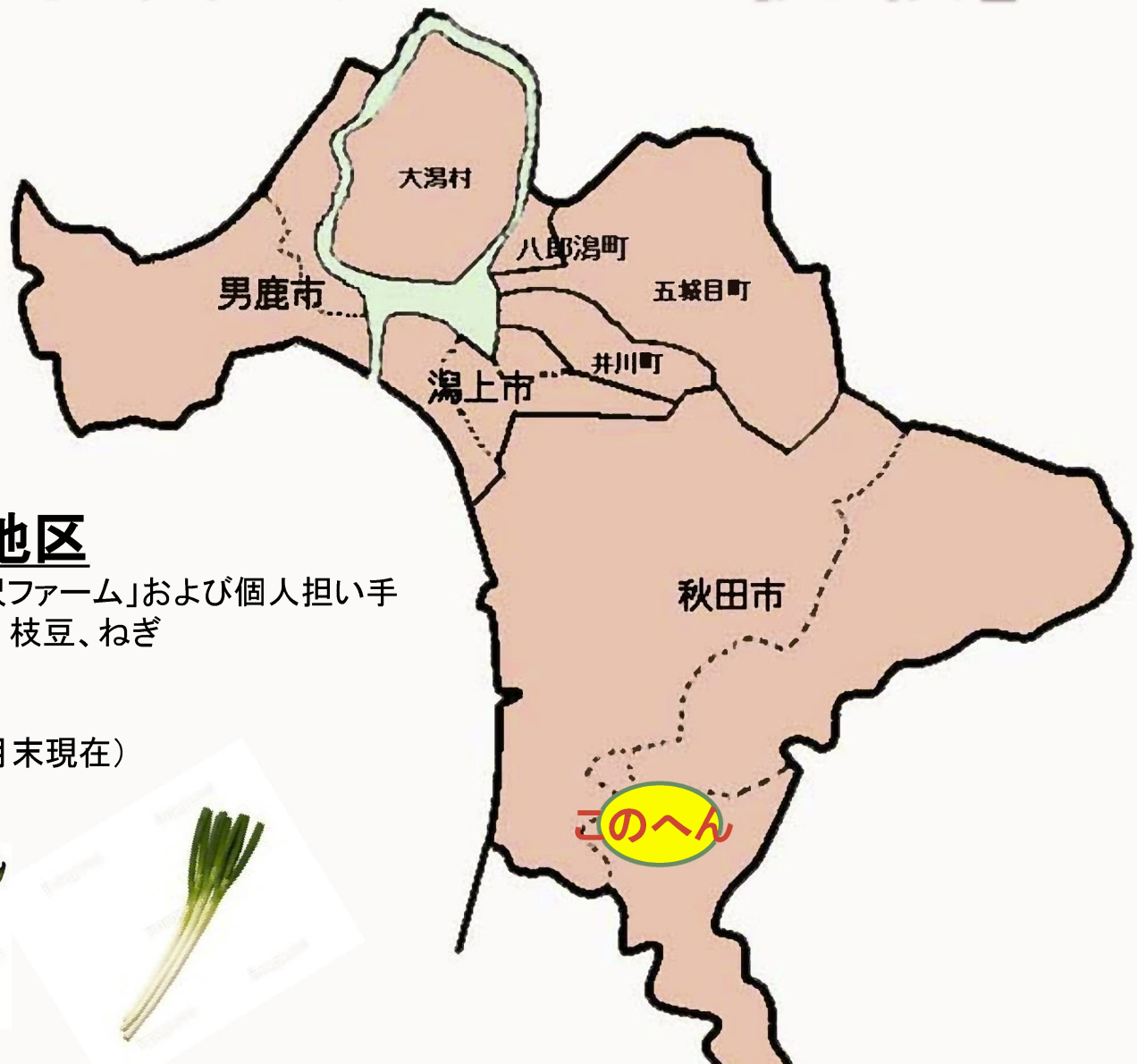


事例報告 「平沢ファームの挑戦」



秋田市雄和平沢地区

実施主体: 農事組合法人「平沢ファーム」および個人担い手

栽培品目: 水稲、大豆、ダリア、枝豆、ねぎ

事業年度: 平成26年度

集積面積: 9,559a

集積率: 83% (平成26年12月末現在)



経緯

平成21年度

- 法人設立に向けて、4つの集落の代表者が発起人会を発足
- 関係機関を交えながら、平成24年度までに50回以上の話し合いを実施

平成25年度

- ほ場整備事業(農地集積加速化基盤整備事業)採択
- 人・農地プラン策定に向けた検討会実施
(中間管理事業活用を念頭に「中心経営体」「離農者」等、地域の5年後、10年後を見据えた話し合い)

平成26年度

- 6月 : 市、機構、県を交えた地元との意見交換会
- 7月 : 法人設立
- 8~10月 : 人・農地プラン策定
農地貸付申請書類の作成
- 11月 : 機構が出し手から農地を借り入れ
- 12月 : 機構が受け手(1法人・1担い手)へ農地を貸し付け



農地の配分概要

①	法人「平沢ファーム」へ	91.5ha
②	個人担い手Aへ	4.0ha
	その他（非貸付地）	19.9ha
	計	115.4ha

※平成26年12月末時点

機構集積協力金について

1. 地域集積協力金

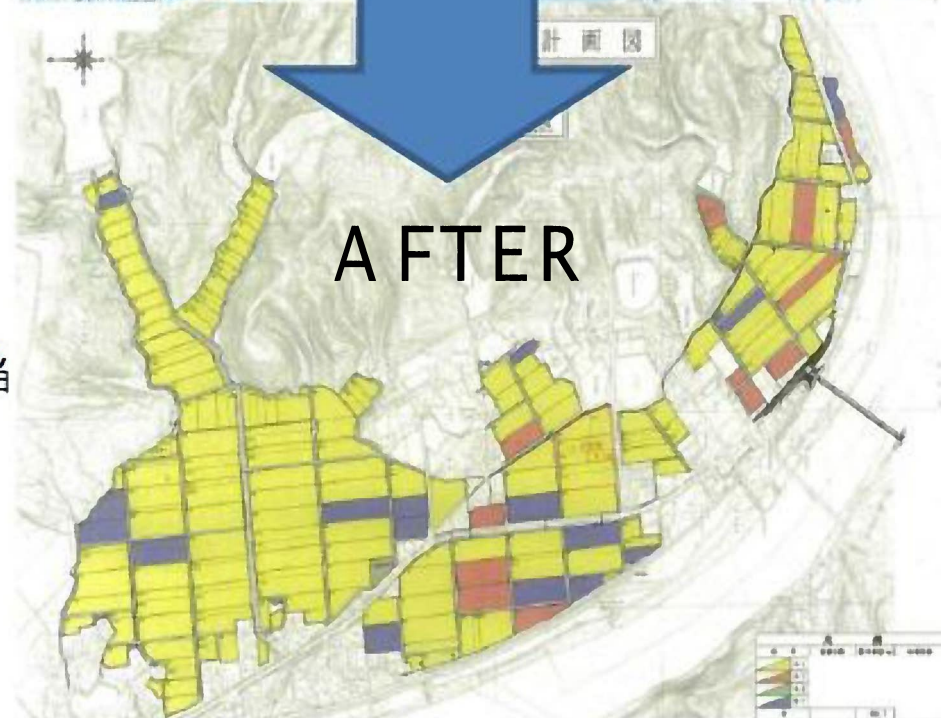
地域内農地の機構への集積率

$$95.5\text{ha} \text{ (①+②)} / 115.4\text{ha} = 83\%$$

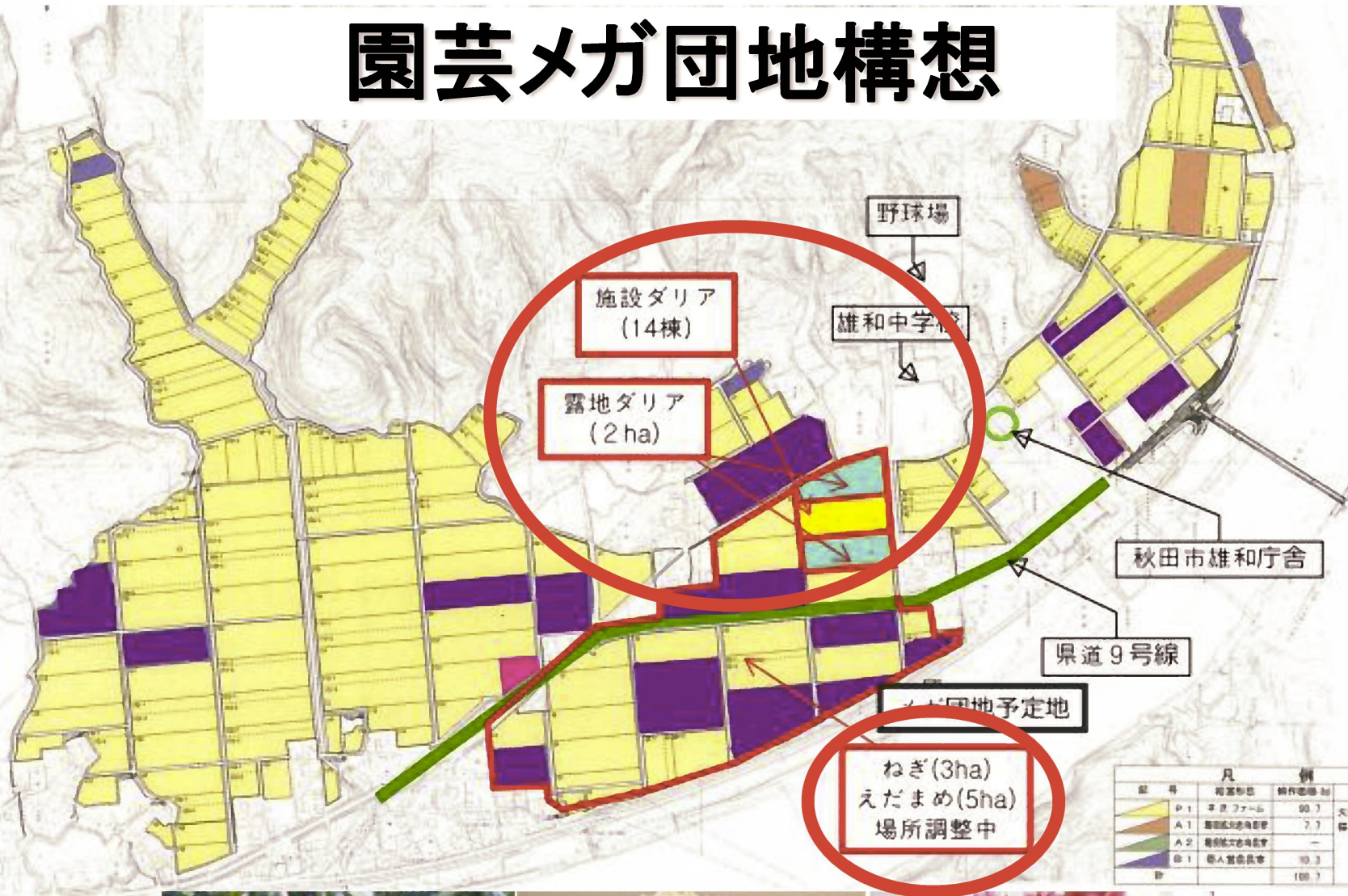
↓
10aあたり
3.6万円に該当

2. 経営転換協力金

農地の出し手83名に対して、それぞれの貸付面積に応じて30～70万円を交付



園芸メガ団地構想



関係機関の役割

県

・法人設立支援 ・技術支援 ・事業支援など

JA

・営農指導 ・資金関係のアドバイス など

市町村

・出し手農家リスト ・受け手農家のチェック
・人・農地プランの修正 ・地域集積協力金の エリア設定 など

改良区

・ほ場リスト情報管理 ・法人設立支援
・ほ場整備進捗管理 など

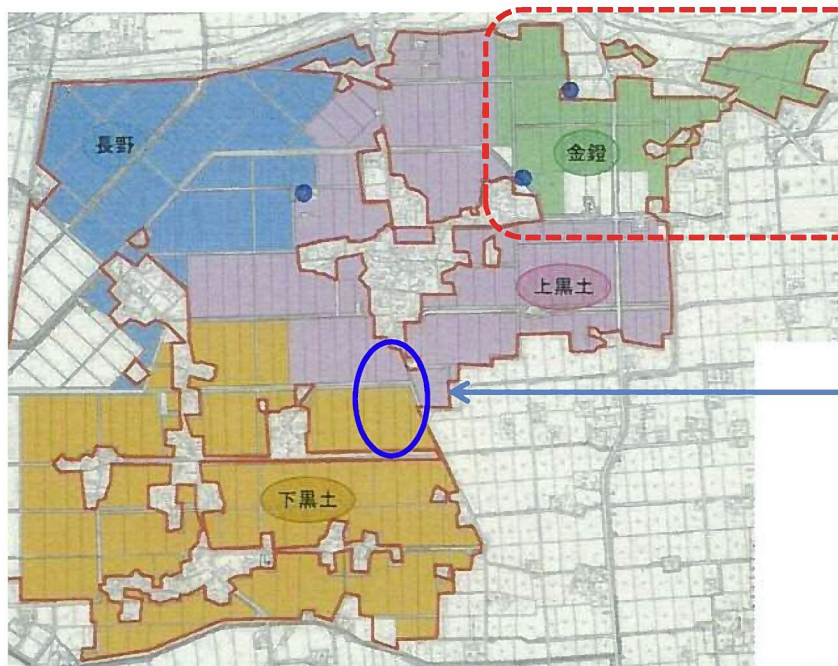
法人

・出し手農家への事業説明 ・申請書のとりまとめ
・市等関係機関との連携 ・受け手としての法人設立 など

大仙市中仙中央地区の概要

4－（２）

- 従来の米偏重から、園芸メガ団地の整備と基盤整備による大区画化を併せて進めることにより地域雇用を確保し、効率性・収益性の高い米・大豆・園芸作物の複合経営の確立を目指している地域。
- 当該地域のうち、本年度から基盤整備を開始した1地区において、新たに設立する法人に30haの農地を集積する計画。（基盤整備が完了した長野、上黒土、下黒土の3地区では、平成25年度に設立された3法人へ公社が計210haを集積済み。）
- これらの取組みにより、地域全体における担い手への集積率は約9割まで上昇する見込み。



機構を介して法人への
農地集積を進める地区

園芸メガ団地
トマトハウス 104棟
(6ha)



由利本荘市鳥海平根地区の概要

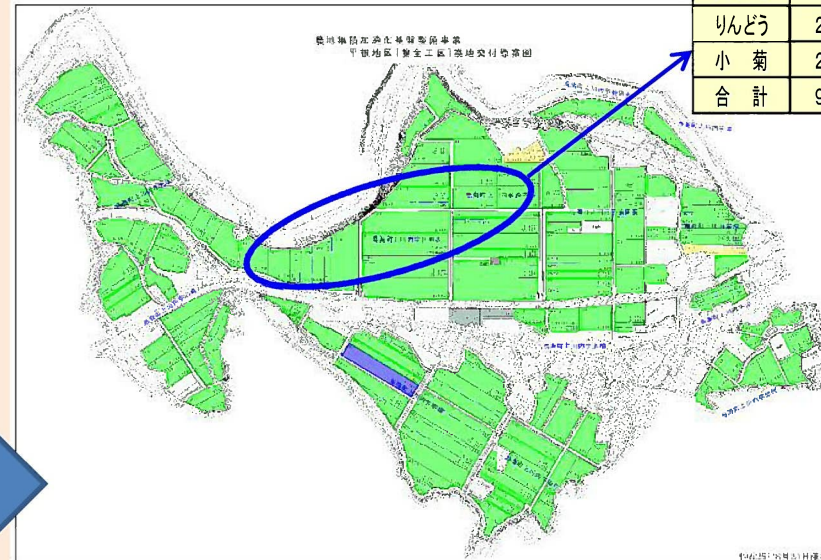
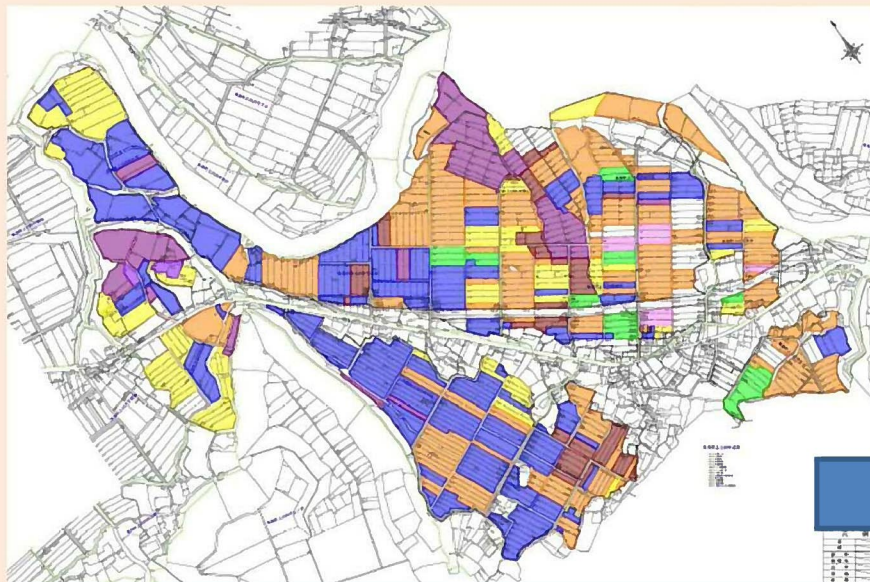
4－（3）

～基盤整備事業を契機に法人を設立し、機構を活用して農地の集積・集約化を促進～

○従来の米偏重から、園芸メガ団地の整備と基盤整備による大区画化を併せて進めることにより、地域雇用を確保しつつ、効率性・収益性の高い米・りんどう・小菊・アスパラガスの複合経営の確立を目指している地域。

○平成26年度から基盤整備を開始している地区において「農事組合法人平根ファーム」を設立。機構を介して55ha、723筆の農地を集積。

○法人に集積することにより、地区全体における担い手への集積率は約9割まで上昇する見込み。



園芸メガ団地	
アスパラ	4.1ha
りんどう	2.9ha
小 菊	2.9ha
合 計	9.9ha

取り組みのポイント

○ 事業活用の体制作り

- ・地域農業とほ場整備事業について検討するため、平成21年に下平根集落営農組合長が音頭をとり、平成22年に組合役員24名で構成する事業推進委員会を設置。
- ・基盤整備事業着手までに58回もの話し合いを重ね、法人化や担い手への農地集積、転作作物の選定等を地域で決定。

○ 法人化への取り組み

- ・基盤整備により農家個々の経営規模が拡大したとしても将来が不安という意識が大。
- ・下平根集落営農組合長がリーダーシップをとり、基盤整備事業の調整会議等を活用して法人化の意識を醸成。普及センターが営農を指導。JA等が財務・経理知識の習得等を支援。
- ・平成26年7月に「農事組合法人平根ファーム」を設立。農地集積を進め、鳥海りんどう、アスパラガス、大豆等を核とした複合経営による経営の安定・低コスト化を目指す。

○ 平根地区における農地集積・集約化状況（農地集積加速化基盤整備事業）

区分	受益面積 ①	集積面積		増加面積 ③－②	集積率 ③／① 【H27年度】
		実施前 ②	27年度末 ③		
集積・集約化	63.6ha	0	55ha	55ha	86%

※「集約化」とは「集積」のうち、1ha以上の農地をまとまった形で担い手に集約している面積